

教員名	古瀬 奈津子 (FURUSE Natsuko)
所 属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学 位	博士 (文学) (1999 東京大学)
職 名	教授
URL/E-mail	furuse@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

天皇制 / 儀式 / 日唐関係史 / 古代から中世へ / 日唐律令制の比較研究

## ◆主要業績

総数 (6) 件

- ・古瀬奈津子「綸旨の成立」『法制史研究』55号、2006年3月、51-79頁
- ・古瀬奈津子「手紙のやりとり」平川南他編『文字と古代日本4 神仏と文字』吉川弘文館、2005年10月、218-241頁
- ・古瀬奈津子「書儀・書簡よりみた日唐古代官僚制の特質」『お茶の水史学』49号、2005年12月、119-129頁

## ◆研究内容

日本の歴史を理解するためのキーワードのひとつは天皇制である。日本古代における天皇制の成立と展開について研究している。平成17年度は科研「日本古代における書状の社会的機能に関する研究」の一環として、綸旨の成立について論じた。綸旨は天皇の意を奉じた蔵人が書き記し、蔵人の名によって他者へ差し出した書状形式の文書である。8世紀には天皇の命令は口頭であり、伝達するのは女官であったが、9世紀末から10世紀初めになると蔵人が奏宣機能を担うようになる。その後、日記からみていくと、11世紀初めの後一条天皇の時期に綸旨としての書式が成立することがわかる。文書としての綸旨の初見も後一条朝である。その背景としては政治機構の中世的な家政機関化が想定できる。綸旨の成立は中世的な天皇制システムの始まりを示している。その他、日本古代の書状について、当初は公的な場面で使用される文書として受容されたことを指摘し、また、書状に影響を与えた上表文について検討して、日本の天皇・唐の皇帝と官僚との関係の違いについて考察した。

## ◆教育内容

学部の日本史概説においては、7世紀から12世紀までの歴史上のトピックとして、学生が関心をもつことができるように、女性の天皇、遣唐使、摂関政治と女房文学について取り上げた。日本史講読においては、律令格式、六国史、木簡、日記、文書など出来るだけ多くの古代・中世の史料にふれることができるようにした。日本古代史料演習では『続日本紀』延暦元年条を読み進め、桓武天皇初期の政治や社会の変化を探った。日本古代中世社会経済史では、書状に焦点をあて、古代における中国の書儀・書状の受容と日本の書状の成立を考察し、書状からみた日本社会の特質について論じた。大学院においては『令集解』と『小右記』を講読し、律令制の基礎とその後の社会的変化について理解を深めた。卒論・修論については発表会と個別指導を併用した。歴史現地調査では岡山県で、備中国分寺や古墳、吉備津神社、鬼ノ城（朝鮮式山城）などを見学し、古代の吉備の位置づけについて考えた。

## ◆共同研究例

---

- ・日唐律令比較研究の新段階

## ◆特許

---

- ・『唐令拾遺補』の刊行
- ・『御堂関白記全註釈』の刊行
- ・天聖令からみた日唐令の比較研究
- ・中国法制文献の日本への伝来とその伝存状況に関する基礎的研究
- ・平安時代における貴族の日記をめぐる研究

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

「日本古代における書状の社会的機能に関する研究」を発展させ、7世紀から12世紀までを通じて、公式令との関係を念頭におきながら、敦煌・吐魯番文書を含めて、中国の書儀・書簡と日本古代の書状との全面的な比較研究を行う。日本においては10世紀に至り初めて中国の書儀に該当する往来物が成立するが、その背後にはどのような社会的変化が存在したのかを考察する。書状研究を通じて、日本の基層社会・文化を探求する。また、新たに中国で発見された天聖令と日本令との比較研究も行いたい。

## ◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

---

- ・日唐律令制および礼制の比較研究
- ・平安時代における社会史的・文化史的研究
- ・日中関係史

## ◆受験生等へのメッセージ

---

女子大というと閉ざされたイメージがあるかもしれませんが、お茶の水女子大学の場合それは当てはまりません。サークルだけではなく、ゼミや勉強会を通じて他大学との交流もあります。他大学の単位を取得する制度もあります。お茶大の中だけに閉じこもらずに、積極的に外の世界とのつながりをもつようにしましょう。

ただし、国立女子大学の意義もまたあると思います。現代社会においては、まだ就職や、結婚をし子どもをもった後に仕事を続けようとした場合などに、男女平等とは言えない部分があるのではないのでしょうか。子どもの出生率が下がったままなのは、こうしたことに原因があるのではないのでしょうか。本当の意味において男女がそれぞれの特性をいかして生きていける社会を実現していくために、国立女子大学の意義はまだ大きいと言わざるを得ないと思います。